

科目名称：	現代社会と法	
担当者名：	大屋 恵子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
この授業は、社会生活をしていく上での法との関わりについて学びます。私たちを取り巻く法的環境は極めて多様化しています。新しい法制度の導入もあります。私たちすべての人が生きていく場面で出会う法律「民法」を中心に授業をすすめますが、「民法」に入る前に、国の最高法規、基本法である「日本国憲法」を知っておく必要があります。最初に憲法の学びをし、さまざまな法律問題を共に考えて行くことを目的とします。		
授業の達成目標・到達目標		
社会の一員として認識しておかなければならない法律知識を学びます。私たちは、世の中の動きに敏感であることが必要です。日々のニュースを見聞きし、考える時、法的な知識があるかないとでは大きく違います。法律は難しい！では済まされないことを分かってもらいたいと思います。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP (2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP (3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP (1)	70		30		100
ビジネスDP (2)					0
ビジネスDP (3)					0
ビジネスDP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）
なし	

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間 (分)
第1回 授業の目的および社会生活と法について	自分と法との関わりを考え、ノートにまとめる	15分
第2回 憲法とは何か、日本国憲法の成立、基本原理	教科書2-3頁、34-47頁を読み、ノートにまとめる	15分
第3回 国民の権利と義務	基本的人権の内容を読み、初めて知ったことをノートする	15分
第4回 平和主義、法の下での平等	平和および平等について考え、次回のグループワークに備える	20分
第5回 平和主義、法の下での平等についてグループワークする	グループワークしたことをレポートにまとめる	20分
第6回 民法について	身近な契約について考え、ノートにまとめる	15分
第7回 契約	身近な契約について考えたことをグループで話し合う	20分
第8回 不法行為	具体的な不法行為例の資料に目を通しておく	15分
第9回 家族法	現代の家族のあり方について考え、ノートする	15分
第10回 家族法	知っておきたい家族法の裁判例を読んでおく	15分
第11回 労働法	働き始めるにあたり知りたいことをノートにまとめる	15分
第12回 労働法	労働法上の問題点の資料に目を通しておく	15分
第13回 犯罪と刑罰に関する法	犯罪および刑罰について考え、死刑制度について思うことをノートする	15分
第14回 裁判制度について	裁判員制度を含めて裁判制度を考える	15分
第15回 まとめ演習 (授業内でディスカッションをしながら演習問題に取り組む)	14回の授業を振り返り、演習問題を考える	20分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。  
また、事前事後学修としては、考えた内容を小レポートにまとめておくこと。

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、70%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。  
レポート30%で評価する。

#### 課題に対するフィードバック

授業内で提出したレポートは評価し返却する。定期試験の返却希望者には事務局を通して返却する。

#### 教科書・参考書

『井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法』(講談社) その他、資料を配布し、参考書等は授業の中で示す。